

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300489		
法人名	特定非営利活動法人 菜々の会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	佐賀県鳥栖市儀徳町2907-1		
自己評価作成日	令和 5年 7月 3日	評価結果市町村受理日	令和6年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 5年 9月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を穏やかに過ごして頂けるような関わりを大切にしています。拘束ゼロ・施設は行わず、なるべく制止しない関わり方に努めています。又、バランスの取れた食事提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県の東部に位置し、同じ敷地内に同法人の高齢者施設が併設されている。ホームの近隣は、地域行事なども中止されるなど、住民の高齢化が進んでいる。コロナ禍において、対面での面会や運営推進会議が中止されていたが、感染症予防を行いながら、少しずつ対面での実施がなされている。介護職での経験が長い職員が多く、管理者が中心となり、入居者へ敬意を払ったケアや言葉かけなど、職員一人ひとりへの意識付けがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りをする時理念の唱和をしている。	ホームのリビングに理念が掲示されており朝礼時に唱和をしている。月に一度の定例会や毎日の申し送りの時に、理念の実践の振り返りを管理者を中心に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、交流を中止している。	コロナ禍であることと、地域住民の高齢化にともない、地域の行事が中止となっていることから、対面での交流の機会が減っている。そのため、運営推進会議に参加される地区の役員の方に地域の情報をうかがっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な事は、していない。認知症は、特別な事では無い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況・取り組みを報告し、皆様の意見をサービス向上に活かしている。	対面にて、ホームの状況を写真などを用いて報告しており、意見等が出やすい雰囲気の中で開催されている。ただし、遠方在住であったり、コロナ禍の感染予防の観点から家族の参加がない。	対面での参加が難しい家族からも意見をもらえるような工夫や、家族も会議へ参加しやすいような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らない事があれば尋ねている。	市担当者とは管理者が窓口となり、わからないことが聞きやすい関係性を築くことができている。また、市が開催する研修にも参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前向きに捉えている。	3か月に一度身体拘束適正化委員会を開催し、参加できない職員へも資料を配布し、内容を共有している。申し送りや月に一度の定例会の中で、アイデアを出し合い、身体拘束に頼らないケアの実践につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に話し合いを実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、説明している。又、不安等に対しては誠意をもって説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎朝、申し送り時、意見があれば伝えている。	家族等からは、ホームの利用料の支払いの時に直接対面で意見を聞き、申し送りの時に職員間で共有している。遠方に住む家族には、入居者が過ごす全体の様子がうかがえる写真を送り、電話などで意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じてやっている。	月に一度定例会を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映している。また、個別にも意見を聞く場を設けている。職員間においても意見が出やすい関係性を築くことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との関わりは、難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様や医療機関から得た情報は、スタッフ同士で共有し、支援にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	失礼にならないように、お尋ねし、良いコミュニケーションを取れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の関係を見極め、ご家族様の希望・意向を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が、出来るお手伝いをして頂いたり、行事等を通じてお話を聞いたりして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望・意向をお尋ねして、ご本人様の支援に反映している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	お墓参りやお盆、外食など、家族に協力してもらい、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援にしている。また、希望があれば、ホームの電話を取り次いで、直接、話せるような支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝レク・行事やお手伝いを通じて、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実施していない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを繰り返す事で、支援計画に反映するようにしている。そして、ご本人様やご家族様の意向・想いが取り入れられるように実施してる。	個別でゆっくり意向が聞けるような居室や入浴の時などを利用し、意向の把握に努めている。また、言葉で伝えることが難しい入居者には、表情や動作などから意向をくみとり、どのような場面でどのような意向をくみとったかを職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々に合った暮らしづくりが出来るように、申し送りや定例会等でスタッフとのコミュニケーションを取りながら、情報交換・共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々・定期的に管理者を含めスタッフ全員が、計画に沿った支援を行う中で、申し送り・定例会等により状態・状況を把握するように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様や主治医の要望や意見を取り入れながら、モニタリング・担当者会議を実施し、その方らしい生き方や生活が出来るように、計画作成にあたっている。	3か月に一度介護計画の見直しをおこなっている。家族からの意見や要望は、通院や面会時、電話をした際に聞き取り、主治医からは定期的に出される居宅療養管理指導にコメントをもらい、モニタリング・担当者会議を実施し、プランへの反映をおこなっている。見直された計画書はモニタリングの結果とともに家族へ郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録や日々の観察から気づきを申し送り・定例会等で情報交換・共有する事で、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態・状況に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域との交流は出来ない状態。ご家族様との繋がりは維持している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を優先している。ご本人様・ご家族様の意向をお聞きして対応している。	希望に応じて、入居前からのかかりつけ医の受診を継続している。通院が必要な場合は、家族の協力を依頼している。緊急時の対応は、事務所内に対応について掲示し、職員間での共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察から状態変化を看護師・職員に連絡・申し送りをし、主治医との繋がりを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院スタッフ・施設管理者・施設スタッフ・ケアマネと情報交換を密に行い、入退院がスムーズに行えるよう信頼関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っている。入居時、ご家族様に説明を行っている。看護師の夜間勤務等の体制も出来ている。	終末期については、主治医より直接家族へ説明をしていただく場を設けている。訪問看護に関しては入居者と個別に契約をしてもらい、協力医療機関も含めて連携を図っている。また、夜間帯は夜勤専従職員での対応となるため、日中の様子が伝わるよう、申し送りを大事にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	一般的な救急に対して研修を設け、対応の仕方を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為、定例会等にて避難場所・経路等の確認をスタッフ全員で行っている。	消防署からの提案もあり、避難経路や災害時の対応を職員間で共有しているが、感染症予防の観点から、避難訓練等の実践訓練は実施できていない。	行いやすい時間や勤務帯などで、日中夜間も含め、災害を想定した避難訓練を行い、実践的な訓練に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、関わりを大切にしている。	研修や勉強会、日々の申し送りの際に、言葉遣いや言葉かけについて振り返り、羞恥心に配慮した行動への意識付けを行っている。個人情報に関しては、外部から見えない場所へ保管をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、ご本人様に選択出来るように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のリズム・ペースに合わせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何もしていない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下処理等をお願いしたり、テーブル拭きや皆さんの手指消毒をお願いしてる。	入居者には、野菜の皮むきやおやつ作りなど、出来ることに取り組んでいただいている。人員の関係から週4日はホームで調理され、それ以外は同法人の隣接施設より食事の提供を行っている。調理専属の職員が勤務しており、入居者の好みを把握し、献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録し、主治医とも連携を行い、体調管理を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人職員が付き添い、食後の口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科医にご指導頂いてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄のパターンを把握・チェックしている。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導や声かけを行っている。また声掛けの際は、本人の羞恥心や尊厳に配慮した声掛けや誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医による指導を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回。声掛け・会話をしながら楽しく入浴して頂いている。	週2回の入浴支援となっている。一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるような時間をもうけている。また、タイミングや時間帯、回数なども、本人希望や意向を考慮して支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状態を見ながら、午前・午後共自室にて休憩を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導を頂き、個別の管理をしている。服薬時は、スタッフ同士氏名・日にちの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の状態・能力に応じてお手伝いをお願いしている。(テーブル拭き・洗濯物たたみ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様に合った支援を行っている。今は、コロナ禍も有り、施設周辺の散歩程度。	感染症予防の観点から施設周辺の散歩を行っている。本人や家族の希望があれば、家族の協力のもと墓参りなど外出をしていただいている。外出の際は、本人の日頃の様子を伝え、家族から本人への支援や協力をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預り金は、していない。必要時は、ご家族様にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不愉快な匂いがしないように努めている。	常時換気をしており、椅子やテーブルなど入居者が触れる場所の清掃を心掛けている。ホーム内にいながら、季節を感じられるような飾りつけを行うなど工夫がなされている。職員が大きな足音をたてないなど、入居者が居心地よく過ごせるような配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々、席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、望まれるようにしている。	使い慣れたタンスのほか、自身が趣味で作った手作りのものを持参されたり、習字道具を持ち込まれたり、入居者が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。本人の身体状況などを加味し、災害時に落下物や家具が転倒しないように居室の配置や安全対策がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動によりリハビリが出来るように、努めている。		